

□ アナリスト週間相場予想

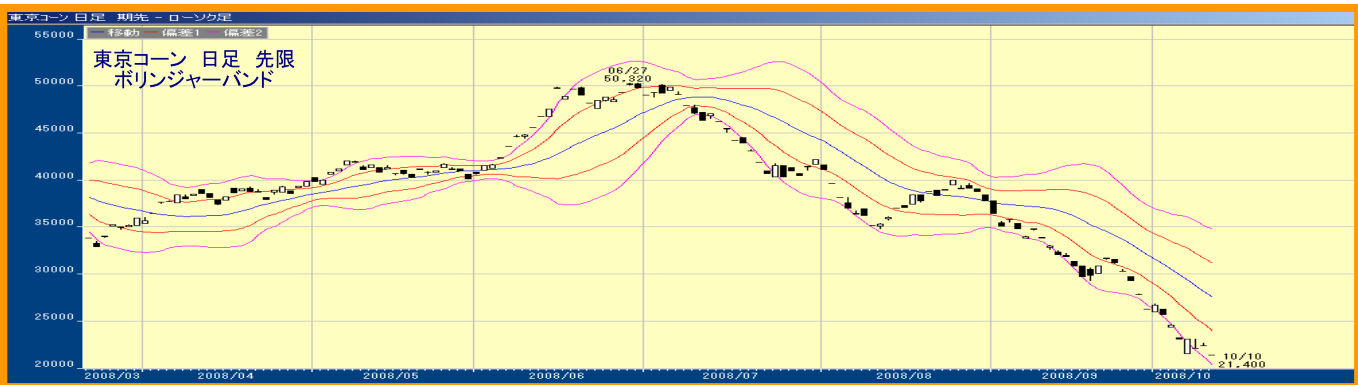
	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 10/13 米国休場
- 14 米農務省 (USDA) 週間輸出検証高
USDAクロープ・プロGRESS
- 17 USDA週間輸出成約高
米キャトル・オン・フィード (集中肥育場内の牛頭数)
米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



先週にくらべてコーン・大豆共に内部要因的にはまだ売り。先週との違いといえば、東京市場の売り方外商が大量のショートポジションを買い戻す動きが顕著化し、USDAを目前にして撤退しているという位。出来高の違いからこの買戻し手口は大豆の下降を支える効果があったと言う程度であり、やはり新規の買い参入はビッグプレイヤー達は見送る。先週から東京市場を買い続ける国内商社勢は少し戻ると転売に動きこれが戻りを押さえてしまっている。大幅な戻り高値は出辛い内部要因環境が続いている。日足チャートも若干の戻りを入れながら標準偏差-2σに沿ってただただ下げ続けておりコーンは今日(10/10前場)で一代安値を更新、大豆は新安値をとってはいないものの買い上げる強さは殆ど感じられない。先週に引き続きアウトライト(片)ならコーンの戻り売り、スプレッドを組むなら2:1でコーン売り大豆買いが無難であろう。(10/10前引け現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

10日発表の需給報告が材料視されるか怪しく感じられるほどに、外部環境の劣悪さが際立っている。世界同時利下げもほんの数時間の時間稼ぎに過ぎず、米国発で株式市場は底割れしてしまった。景況感の悪化、消費者心理の悪化、そして投資家心理もまた悪化したままである。もうそろそろと値頃感で買ってみればつかまり、言葉は悪いが泥沼に沈んでいくようなものだ。ファンダメンタルズでは急騰時と同様、この暴落過程でもやはり行き過ぎと言わざるを得ない。これはシカゴ相場の反応にしても、海上運賃指数(バルチック・ドライ・インデックス、BDI)にしてもそうである。想定を超えるスピードで市場は動いており、これに対応するのは至難の業だ。

さて、今回の需給報告のポイントは次の2点。コーンの需要減少の程度と、大豆の供給減少の程度である。コーンに関しては景気悪化の影響が強く出るとの見方がなされている。エタノール、飼料分野が振るわず、相対的にドル高となったことで輸出にも陰りが見られる。四半期在庫の発表で市場も警戒ムードになっているが、まずは数字を確認しないと始まらない。結果として期末在庫率が上方修正されれば、素直に売り材料と判断したい。

一方の大豆に関しては、産地からのイールド低下の声が本物かどうか争点となりそうだ。やや緩和したとは言え、需給がひっ迫しているのは周知の事実で、供給面の下方修正があれば市場の見方も変わる可能性がある。あとはG7を挟んでの金融市場の変化がどう出るか。市場に安心感がもたらされれば、ちょっとした悪材料ぐらいなら消化は可能だろう。予測は難しいが、買うなら大豆のほうで、コーンの戻りは売るべきものと現状では見ている。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0050(許可取得日08/10/10)